

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 1 区分
【発行日】令和 4 年 6 月 17 日(2022.6.17)

【公開番号】特開 2020-202157(P2020-202157A)
【公開日】令和 2 年 12 月 17 日(2020.12.17)
【年通号数】公開・登録公報 2020-051
【出願番号】特願 2019-110501(P2019-110501)
【国際特許分類】

H 0 1 R 4 / 2 4 0 4 (2 0 1 8 . 0 1)

10

H 0 1 R 9 / 0 3 (2 0 0 6 . 0 1)

【 F I 】

H 0 1 R 4 / 2 4 0 4

H 0 1 R 9 / 0 3 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 6 月 8 日(2022.6.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 4 】

図 1 2 から理解されるように、受容穴 9 4 0 にケーブル（図示せず）の先端（図示せず）を挿入した状態で、ハウジング 9 2 の上方からブロック 9 4 を取り付けると、接続部 9 2 4 がケーブルに食い込む。その結果、接続部 9 2 4 は、ケーブルの被覆部（図示せず）を突き抜けて導体（図示せず）に達する。こうして、コネクタ 9 0 は複数のケーブルに取り付けられる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

30

【補正対象項目名】0 0 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 6 】

【図 1】本発明の一実施の形態によるケーブルハーネスを示す斜視図である。複合ケーブルは端部のみ示されている。

【図 2】図 1 のケーブルハーネスを示す分解斜視図である。

【図 3】図 2 のケーブルハーネスに含まれる複合ケーブルの端部を示す斜視図である。

【図 4】図 3 の複合ケーブルを示す A - A 線断面図である。

【図 5】図 2 のケーブルハーネスに含まれるコネクタのロケータを示す斜視図である。

40

【図 6】図 2 のケーブルハーネスに含まれるコネクタの第 1 ハウジングを示す背面斜視図である。

【図 7】図 2 のケーブルハーネスに含まれるコネクタの第 2 ハウジングを示す背面斜視図である。

【図 8】図 1 のケーブルハーネスと相手側コネクタとを示す一部切り欠き斜視断面図である。ケーブルハーネスに含まれるコネクタと相手側コネクタとは互いに嵌合している。

【図 9】図 1 のケーブルハーネスと相手側コネクタとを示す別の一部切り欠き斜視断面図である。ケーブルハーネスに含まれるコネクタと相手側コネクタとは互いに嵌合している。

【図 10】図 1 のケーブルハーネスを示す一部切り欠き斜視断面図である。

50

【図 1 1】特許文献 1 のコネクタを示す斜視図である。

【図 1 2】図 1 1 のコネクタを示す B - B 線断面図である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

図 2 及び図 6 から理解されるように、第 1 ハウジング 4 2 は、4 個の第 1 端子 3 2 を保持している。図 8 に示されるように、第 1 端子 3 2 の夫々は、前後方向に延びる細長い金属板からなる。第 1 端子 3 2 の夫々は、前方から順番に接触部 3 2 1、被保持部 3 2 3 及び接続部 3 2 5 を有している。接触部 3 2 1 は、コネクタ 2 0 が相手側コネクタ 8 0 に接続されたときに相手側接触部 8 2 1 に接触する部分である。被保持部 3 2 3 は、第 1 ハウジング 4 2 に保持される部分である。接続部 3 2 5 は、コネクタ 2 0 が複合ケーブル 6 0 に取り付けられたとき、対応する第 1 ケーブル 7 2 の被覆部 7 0 3 を貫通して、導体 7 0 1 と接続する部分である。接続部 3 2 5 は、後方へ向かって細くなるようにテーパが設けられている。また、接続部 3 2 5 は、直交方向よりも水平方向において大きなサイズを有している。換言すると、接続部 3 2 5 は、第 1 ケーブル 7 2 の第 1 被整列部 7 2 1 が延びる方向において大きいサイズを有している。但し、本発明は、これに限られない。第 1 端子 3 2 の形状や配置は、第 1 ケーブル 7 2 との接続に支障がない限り、任意に変更することができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 2】

図 2 及び図 7 に示されるように、第 2 ハウジング 4 4 の夫々は、8 個の第 2 端子 3 4 を保持している。図 9 を参照すると、第 2 端子 3 4 の夫々は、薄い金属板からなる。第 2 端子 3 4 の夫々は、接触部 3 4 1 と、被保持部 3 4 3 と、接続部 3 4 5 とを有している。接触部 3 4 1 は、前後方向に延びている。被保持部 3 4 3 は、接触部 3 4 1 の後端から斜め後方へ延びた後、更に後方へ延びている。接続部 3 4 5 は、被保持部 3 4 3 の後端から直交方向に突出している。接続部 3 4 5 には、テーパが設けられている。また、接続部 3 4 5 は、水平方向よりも前後方向において大きなサイズを有している。換言すると、接続部 3 4 5 は、第 2 ケーブル 7 4 の第 2 被整列部 7 4 1 が延びる方向において大きいサイズを有している。